



# 小型電気電子機器等のリサイクルシステムに係る調査研究

一般社団法人広島県資源循環協会 櫻河内 泰徳 (研究代表者)  
 県立広島大学生命環境学部 西村 和之  
 広島国際学院大学工学部 遠藤 敏郎  
 広島修道大学人間環境学部 三浦 浩之

## 1. 研究の背景

- ・H24年8月に小型家電リサイクル法が成立し、H25年4月から施行される。
- ・これを受け、(一社)広島県資源循環協会として、**広島県の小型家電リサイクルの推進に寄与し、レアメタルを含む貴重金属の回収と県内資源循環の促進に貢献**することが望まれる。

## 2. 研究目的

- ・先行的に「**広島県**」で調査・検討されている回収方法(ボックス回収)と異なる回収(主に「**イベント回収**」)に関する**回収実態について調査・整理し、今後の最適回収方法を検討**する上での基礎資料とする。
- ・県内中間処理業者の「**小型家電リサイクル事業**」の**最適処理手法、事業収支等**について検討し、今後の事業展開の基礎資料とする。



エコ・イノベーションメッセ2012inひろしま 回収状況



環境学習 解体状況

## 3. 研究の成果

- ・イベント回収においては、**広報の方法により、回収量・品位に大きく影響を与える可能性が高いことが確認**できた。このため、**広報の方法(組み合わせ・役割分担)を工夫**することが必要である。
- ・**地域コミュニティを核とした回収方法(環境学習イベント回収)が有効な手段**であることが確認できた。
- ・**事業的には、小型家電の処理ノウハウや設備を保有している業者であれば、事業収支は成り立つと想定**できる。ただし、**回収量と品位の確保**が必要である。
- ・**回収量を確保**する為には、**自治体による回収に加え、中間処理業者が独自で回収できる仕組みの構築(指定場所回収など)**が望まれる。回収協力のための**市民へのインセンティブ**も必要と考える。
- ・**市町については、小型家電リサイクル事業に関する方針について、早期の情報提供を期待**する。自治体の回収方法、処理業者の選定要件などが明確にならない場合、市民の間違った理解による**無料回収業者への引渡し**が助長されることが懸念される。

## 4. データなど

イベント名 (開催日・開催場所)	イベント種類	来場者数	回収量	回収率	主な品目 (回収数ベスト3)
はつかいち環境フェスタ 2012 (2012年10月14日 廿日市市スポーツセンター)	環境	1,500人	15.4 kg (45個)	3.0%	1. 携帯電話 2. バッテリー・アダプタ 3. ゲーム機・電話機・キーボード
第11回リサイクルフェスタ福山 (2012年10月14日 福山クリーンセンター)	環境	4,800人	6.1 kg (53個)	1.1%	1. 携帯電話 2. 電子辞書・シェーバー
ひろしまフードフェスティバル (2012年10月27日~28日 広島城周辺)	食	805,000人	312.2 kg (945個)	0.1%	1. 携帯電話 2. FAX・家庭用電話 3. ラジオ
かんきょう祭 in あきたかた~2012 発見~ (2012年10月28日 安芸高田市文化センター)	環境	500人	0.4 kg (5個)	1.0%	1. 携帯電話 2. カメラ
みよし環境フェスタ 2012 (2012年11月3日 CCプラザ3F プラザホール)	環境	100人	0.5 kg (6個)	6.0%	1. 携帯電話 2. リモコン
エコ・イノベーションメッセ2012inひろしま (2012年11月22日~23日 広島県立広島産業会館)	環境	7,620人	8.5 kg (11個)	0.1%	1. 携帯電話・電子辞書・ハードディスク
全体		819,520人	343.1kg (1,065個)	0.2%	1. 携帯電話 2. FAX・家庭用電話 3. ラジオ

### 主な回収品

